

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	2007 年 12月 21日
調査実施の時間	開始 10時 00 分 ~ 終了 14時 35分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 健脳 福島県
-------------------	-------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>大野 恒夫</u>
	氏名 <u>熊谷 まゆみ</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>佐藤 悦美</u> ヒアリングを行った 職員 2人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	770302149
法人名	医療法人 健脳会
事業所名	グループホーム 健脳ハウス
所在地	郡山市富田町字稲川原57番地 (電話) 024-93-6620
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石町1丁目2-13
訪問調査日	2007年12月21日

【情報提供票より】 (19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	14 人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 1.4

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(1000,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3	要介護2	6		
要介護3	4	要介護4	5		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 80.8歳	最低	52歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤脳神経クリニック、ユニバース歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームは基本的には「家」でなければならないと考えており、皆の顔が見える暖かい家、安全で安心して暮らせる家をめざしている。それに合わせて木造の暖かみを活かした建物となっている。事業主体の医療法人は脳神経外科の専門性を活かして、デイサービスセンター、デイケアセンター、居宅介護支援センターを併設し、無料介護相談なども行っている。職員は開設当時からほとんど変わらず利用者と馴染みの関係となり、利用者の状態をよく把握したケアを実施しており、利用者もゆったりと安心して過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目(運営理念の明示・啓発、緊急時の手当て等)についてミーティング等で周知し、改善に取り組んでいる。(緊急時の手当てについては、法人クリニックの看護師による救急講習会を実施)
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全スタッフで自己評価を行い、管理者とリーダーでまとめ、さらに全員で話し合いを行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	2か月1回の運営推進会議では毎回資料を作成し、サービスの提供状況や利用者の状態等を報告し、参加者から意見をもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族からの苦情・要望処理簿により家族の意見が反映されるよう取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人主催の健脳祭りに町内会を通じて参加を呼びかけ多くの住民が参加している。また、法人クリニックで無料介護相談を実施している。

2. 調査報告書

調査員氏名 大野 恒夫

同行調査員氏名 熊谷 まゆみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者が地域の中で安心して生活できる環境を提供し、共同生活を通じて、認知症高齢者の生活を援助するとともに認知症の軽快をめざすことを理念としているが、地域住民との交流について理念に明文化されていない。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスとしての役割をめざした内容となっていることが求められます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼やミーティングで理念について話し合っている。		<u>理念が日々の利用者とのかかわりなど実践に反映されているか、ふりかえりの場をもつようにしてしてほしい。</u>
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人主催の健脳祭りに町内会を通じて参加を呼びかけ多くの住民が参加している。また、法人クリニックで無料介護相談を実施している。		町内会に加入し、地域の一員として地域行事に参加出来るものについては参加していくことを検討してほしい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	指摘事項についてミーティング等で話し合い、緊急時の手当てで法人クリニック看護師から講習を受けるなど具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回運営推進会議を開催し、毎回資料を作成してホームの運営状況等を報告し意見をいただき、サービス向上に活かしている。		改善事項について改善計画書を作成、取り組み状況を運営推進会議に報告し、取り組み経過のモニター役になってもらってほしい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「健脳だより」の送付、金銭管理については、小遣い帳のコピーを送付、家族の面会時に健康状態や暮らしぶりを報告している。		職員からの便りで、利用者の日常の暮らしぶりを知らせることも良いと思われます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族からの苦情・要望処理簿により家族の意見が反映されるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんどの職員が開設当時と変わっていない。利用者への対応のマナー化を防止するため、3か月に1回、一人ずつユニット間の異動を行っているが、ユニット合同のクラブ活動等により職員は顔なじみとなり利用者へのダメージはない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年に3～4回、法人主催セミナー（市内の介護保健施設に参加を呼びかけている）に参加することなど学ぶ機会を作っている。外部の研修にもなるべく参加させるようにしている。</p>		<p>外部研修に毎年計画的に参加させることやテーマ別（接遇、食中毒等）の研修を検討してほしい。</p>
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国グループホーム協会に加入している。法人主催のセミナーに地域の同業者も参加しているので、その中で交流する機会を持っている。</p>		<p>地域の同業者との交流をより深めるため、地域のグループホーム連絡協議会への参加を検討してほしい。</p>
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>楽しいだけでなく怒ることも否定せず、スタッフが聞き役となるなど信頼関係を築くよう努めている。利用者と一緒に献立づくり、家事等を行う中で、料理などを教えてもらうことが多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの中で本人の思いや意向を把握するよう努めるとともに、日々の関わりの中で利用者の思いを汲み取るように努めている。	○	日々の関わりの中でつかんだ利用者の思いや意向、職員の気づきを基本情報に追加していく仕組みを検討してほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含めケアカンファレンスやミーティングで職員の意見を出し合っている。利用者や家族には日ごろの関わりや面会時に意向等を汲み取るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング（課題に対する評価）を3か月に1回、プラン更新を6か月に1回実施している。状態変化があった場合は随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が協力医療機関である法人クリニックをかかりつけ医として希望している。院長が毎日訪問するとともに2週間に1回クリニックを受診している。</p>		
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>看取りを実施している。「医療体制と終末期医療」について説明し家族に同意を得ている。状態が変化した場合は、その都度話し合い確認している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーに配慮した言葉かけや対応に心がけ、気になる対応があった場合は、その都度注意するようにしている。</p>		
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間、食事時間、散歩等、一人ひとりの状態や希望に配慮しながら対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と相談して決めている。配膳、下膳、食器ふきなど利用者に手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をとり、必要最小限の介助をしている。		昼食の献立は外注業者が作成しているが、献立、調理方法等についてきめ細かな意思疎通が望まれます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能で、午後9時まで入浴できる体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	クラブ活動(花、工作、習字、音楽、ドライブ)、外食、掃除、洗濯物たたみなど、一人ひとりに合わせた役割や楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や買い物など戸外に出かける機会をつくっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、戸を開けるとチャイムがなる仕組みで外出を察知するようにしている。		外出傾向の把握、見守り体制、無断外出してしまった場合の対応等について職員全体で話し合ってほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の通報訓練、月1回の夜間想定避難訓練を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食の外注業者の管理栄養士に献立表を見てもらうようにしている。食事量はチェック、水分量は水分制限のある人についてチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い玄関ロビー、日当たりの良いリビング、和室に家庭的な装飾、調度品があり、居心地よい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた古い箆笥、写真などが持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 健脳ハウス

記入担当者名 管理者 佐藤 悦美

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。